

驅逐艦羽風、澤風製造一件

0133

起案 郵 紙

大正七年十月十九日起案

起案者 捺印

十月十九日發付 捺印

發付後 捺印

發付後 捺印

(主務) 鐵政局長 (出頭)

大臣内

副官

次官 (初) 參事官

經理局長 (勝)

第二課長 (宇)

技術本部

第四部 (初) 第四課長 (宇)

大正七年十月十九日

海軍大臣

鐵道部用物件供給に關する件

本月十日官房第三〇八号の訓令に基き官房社

官房第三〇八號

局部	官房	軍務	人事	醫務	經理	司法	艦政	技木	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十月十九日												
發月日													

6.10.19

6.10.16

6.10.18

0134

10.20

掛原約

長崎造船所
 送付也
 平物件申
 錨
 新

除云
 左訓云云

(宛)

引

目

0135

起案野紙

大正六年十月

日起案 起案者 捺印

十月十一日 日發付 發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

(主務)

艦政局長

副官 大南

大臣は

次官は

參事官

第二課長

第三課長

第四課長

第五課長

第六課長

第七課長

第八課長

第九課長

第十課長

經理局長

勝

第二課長

佐

田

技術本部長

秋

第四部

第五部

第六部

第七部

第八部

第九部

第十部

大正六年十月十一日

海軍大臣

副官

佐

田

大

佐

田

大

佐

其ノ付工廠ヨリテ軍艦多摩用ニ左記物件ヲ製造スニ著

軍艦多摩用ニ左記物件ヲ製造スニ著

佐 鎮 具 令 長 方 又 次

海軍大臣

號番

官房第三〇八六號

一

二

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部

10.20 14

0137

艦政 6.10.8 五排

10.3

合資會社長崎造船所ニ供^{送付}給セ之ク

但之製造要領、總テ軍艦球磨用ニ同之費用

ハ軍備補充費、軍艦製造費、支弁ト之別途

配付ス、豫算額取調報告ス

左記

左記

一、スターンフレーム

一、シャフトブランクット

一、舵骨

一、錨

一、エレクトリックヘルムイニテーター

一、中間軸推進軸及接手

終

大正六年十月十一日 海軍大臣

舞鏡目録

其、府工廠より取逐艦澤風用左記物件ヲ製造
三菱合資會社長崎造船所、御給せり
但、製造要領、給取逐艦等凡用、同之費用ハ
軍備補充費、軍艦製造費、支弁トシ別途配
付スル様新款取調報告ス
左記

左記

一、取取逐艦用、取取逐艦用

一、取取逐艦用

官房第三〇六號

0139

一、 釜

一、 中間軸推進軸及接手

沖

台

機
原
形

0140

普通 密

案起 六年十月 日 起案

艦政局長



第二課長
第三課長
第五課長



局員



艦政局長

宛

多摩子(澤)

佐之助長

多摩子(澤)用(ヤ)下(フ)ケ(ト)

其他供給(ヨ)ク(ス)

三葉長崎造船事業(都)屋上(巳)ケ(ト)得(ス)

「ヤ」ハ「フ」ル(ケ)「ト」其地官給(ル)事(決)シ(今)般(有)ク

第三八六號(海)訓(令)事(本)型(ニ)

三(ノ)近(球)磨(出)産(見)同(録)ト(シ)製(作)者(ハ)之(ト)

一(ノ)上(必)要(ナ)ル(士)上(ヲ)爲(シ)備(付)キ(或)持(取)ル(者)之(期)

球磨(出)産(見)一(ノ)分(ヲ)一(ノ)月(以)上(後)シ(甘)ん(罷)困(不)

發送 大正 年 月 日 番號

艦政船第 三二七 號

添付 圖

附書



△勸業(内)務(省)任上
外(務)省(任)上(ト)シ(其)他(ノ)

0141

10.



艦政船第 三二七 號 一五

豫交申由 刻有
 九月二十日付の以テ 願出申成ル物例申左記 契約書
 三條ニ依リ 官給ノスルニ 金牙 申渡ル 巡洋艦ノ分ニ
 佐世保海軍工廠 距離 函經ノ分ニ 申渡ル 海軍工廠 制
 借給可成ル 但 其期日ニ 迫テ 決定ニ 上 申 可 成ル
 有 申 可 成ル

大正六年十月 日 輕 政 令 第 一 五 號

由テ 申 渡ル 物 例 申 左 記 契約 書
 官 給 ノ ス ル ニ 金 牙 申 渡 ル 巡 洋 艦 ノ 分 ニ
 佐 世 保 海 軍 工 廠 距 離 函 經 ノ 分 ニ 申 渡 ル 海 軍 工 廠 制
 借 給 可 成 ル 但 其 期 日 ニ 迫 テ 決 定 ニ 上 申 可 成 ル
 有 申 可 成 ル

海 軍

0142

(四) 浮揚機 左記	一、スターシフレーム	一、シヤフトブローケット	一、舵骨	一、錨	一、エルクリクハムイニエタイケーター	一、主機 中間軸推進軸及操身(軸心部弁弁上外弁蓋上操身: 並記) 係 重油噴燃器(弁上: 係記)	一、シヤフトブローケット	一、舵骨
---------------	------------	--------------	------	-----	--------------------	--	--------------	------

(横原)

海軍

(一) 錨

錨

一. 定管

一. 中向軸推進軸(軸の内部本径外部直径と握手の直径が異なる)

一. 重油噴燃器(コークス供給機)

(終)

(様厚紙)

0144

收向

先

御願

謹啓陳者此度弊社ニ於テ貳等巡洋艦並ニ壹
 等驅逐艦各壹隻建造方御下命相蒙リ申候
 處右ニ要ス別紙記載ノ材料部分品等ニ自下弊
 社ニ於テハ其製作又ハ購入ノ不可能ニ有之又他ノ内
 地製造業者又ハ販賣者モ到底弊方所要期
 限内ニ製作又ハ供給出来難ク且ツ其價格モ極メ
 テ高價ニ到底他ヨリ其供給ヲ仰キ候事出来
 難ク候ニ就テハ甚ク勝手々同敷御願ニ候得共
 右材料等内海軍工廠ニテ御建造ノ姉妹艦用

三井物産株式會社

御製造

私立工場ニ御註文

三井物産株式會社



0145

場合ハ弊方分モ併セテ御製作ノ上御官給ノ
事ニ御頼申上度且又英國等ヨリ購入ノ便宜有
之候モハ輸出御保證ノ御取計相蒙リ度何
卒特別ノ御詮議ヲ以テ右御許可奉願候也

大正六年九月二十日

三菱合資會社造船部專務理事

中野直枝

海軍省艦政局長 中野直枝殿

0146

2nd CLASS CRUISER.

船 自家製 Stem. 打物 = トン

船 官給 ○ Stern Frame.

船 官給 ○ Shaft Bracket.

船 官給 ○ Rudder.

船 官給 ○ Anchor & Cables.

船 官給 Electric Helm Indicator.

機 官給 . Boiler Tube.

機 官給 ○ Shafting. (船・関係, 主・自家製) 中間軸及推進軸 機中軸
内部本位上 外部本位上

機 官給 ○ Oil Burner. Burner & Cap. i.

機 官給 Heavy Oil. ?

機 官給 Turbine Oil.) 止

機 官給 Engine Oil.) 止

1st CLASS DESTROYER .

船 自家製 Stem.

機 官給 ○ Shaft Bracket. 打物

機 官給 ○ Rudder. 打物

機 官給 ○ Anchor & Cables.

機 不用 Electric Helm Indicator.

機 官給 . Boiler Tube.

機 官給 ○ Shafting. (船・関係, 主・自家製) 中間軸及推進軸

機 官給 ○ Oil Burner. Burner & Cap. i.

機 官給 Heavy Oil. ?

機 官給 Turbine Oil.) 止

機 官給 Engine Oil.) 止

0147

20th September, 1917.

軍務局

三月一日

三

漢字本日の午時



海

軍務局
7. 1. 8

(坂田)



0148

七年

紙

信

技術本部

着

艦

報

軍

供覽

局		着		局		政		務		氏所居人信	
取扱者	受信	付午後	前	付午後	前	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課
		八時	了	一時	了	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課
		字		分		日					
大臣宛 海軍本部午後五時 起工						官報 第三四號 7.1.11 7.1.8					

7.1.11

1.8

0149

紙 信 技 術 着 報 電 艦

郵政船業
四
號

局 着		局		發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	付後	受前	付後	受前	第 一 部	官 報
子		時 分	時 分	時 分	時 分	第 一 部	
		字	分	日	號		
澤風午前十時帰港 一月七日 長崎 中山監督官						定	日
						本 記	日
						番 號	名氏所居人信受
						第 三 一 號	
						印 附 日 信 符	
						10	

郵政二課 0150 受接

軍務局

三著造船株式會社
造船所

技術本部

丁壹町浦ノ飽市島長

秘 (Seal)

九二七

技術本部宛送

機政給第

九號

第一課
第二課
副官

第四部
第五部
第三部
第二部

第四部製圖室

設計畫

江崎

三著造船株式會社社長崎造船所長代

打落... 提出... 概括表 (再訂正) ...

海軍大臣加藤友三郎

監督官殿經由

第五八號

大正七年六月廿四日

營業(送) (手紙) キリ復寫 四通

技本 7.8.5
本技 7.22
受接

7.8.9

7.7.19

7.22.0151

7.7.2

二等巡洋艦多摩工事豫定概略表（再訂正）七〇六三

番號	工事種類	着手年月日	竣工年月日	備考
一	起工（キル据付）		大正七年八月 下旬	
二	進水		大正八年七月 下旬	
三	主機積込	大正八年六月上旬	大正八年六月 下旬	
四	積込	大正八年三月中旬	大正八年三月 下旬	
五	主砲積込	大正八年八月上旬	大正八年八月 下旬	
六	射管積込	大正八年八月上旬	大正八年八月 下旬	
七	行運	大正八年五月上旬	大正八年五月 下旬	
八	試運	大正八年五月中旬	大正八年五月 下旬	
九	砲試射	大正八年五月上旬	大正八年五月 下旬	
十	引渡		大正九年一月 下旬	

0152

軍務局

三菱造船株式會社
船造部
浦町
長崎市長

奉

技術本部

<p>附屬 第一通 外務省 海軍大臣加藤友三郎殿 監督官殿 謹言</p>					<p>驅逐艦 第四五〇號 7.9.38 九</p>				
<p>海軍大臣加藤友三郎殿</p>					<p>監督官殿</p>				
<p>驅逐艦況風工事豫定概括表(再訂正)提出件</p>					<p>提出件</p>				
<p>揮啓頭書工事豫定概括表(再訂正)別紙</p>					<p>別紙</p>				
<p>一通茲許提出仕矣</p>					<p>提出仕矣</p>				
<p>第三課 造船株式會社長崎造船所長</p>					<p>造船所長</p>				
<p>第四部</p>					<p>第四部</p>				
<p>第五部</p>					<p>第五部</p>				
<p>第一部</p>					<p>第一部</p>				
<p>第二部</p>					<p>第二部</p>				
<p>第三部</p>					<p>第三部</p>				
<p>副官</p>					<p>副官</p>				
<p>第二課</p>					<p>第二課</p>				
<p>第一課</p>					<p>第一課</p>				
<p>濟技計畫</p>					<p>濟技計畫</p>				
<p>寫清</p>					<p>寫清</p>				

奉

0153

番號	工事種類	着手年月日	竣工年月日	備考
一	汽釜積込	大正七年十月上旬	大正七年十月中旬	
二	汽機積込	大正七年十月下旬	大正七年十月上旬	
三	進水		大正七年十二月廿二日	
四	主砲積込	大正七年十月中旬	大正八年一月中旬	
五	発射管積込	大正七年十月下旬	大正八年一月中旬	
六	予行運転	大正八年二月上旬	大正八年二月上旬	
七	公試運転	大正八年二月中旬	大正八年二月下旬	
八	大砲公試發射 水雷公試發射	大正八年二月下旬	大正八年三月上旬	
九	引渡	大正八年三月廿一日		

一等駆逐艦沢風工事豫定概括表 (再訂正) 七八八言

0154

軍務局

大正七年十一月十一日

午後一時五十分長崎局發
午後五時分海軍局著

海軍

發信者

三菱造船所

受信者

海軍大臣

電報譯

駁送船羽風本日午前十時志工セリ

小牧

起工 志工 初時

三菱造船所 海軍大臣

第五印刷局

0155

佐鎮第五七號ノ三ノ三

大正七年十二月六日

佐世保鎮守府司令長官職務執行者

海軍大將男爵八代大尉

海軍大臣加藤友三郎殿

驅逐艦進水ノ件

三菱合資會社長崎造船所ニ於テ製造中ノ驅逐艦

澤風來一月七日午前命名式舉行ノ豫定ニ候

右報告ス

軍務局

艦政局

岡田

第三

初

7.12.19

16

13

0157

海軍

技術本部

社會所 造船株式會社 造船部 局長 目丁 浦ノ砲市

供

技術本部宛送

新

第一課
第二課

駁船羽
十一月十一日(多々校)
日本午前十時起工セリ

十一月十一日(多々校)

第一課
第五課

三菱造船株式會社社長崎造船所

第一課
第二課

謹言

拜啓左
リ電信ノ上候ニ付爲念茲ニ御

海軍大臣加藤友三郎殿

第 號
大正七年十一月十一日

監督官殿經由

機政 7.1119 五様

7.11.18 機政

7.11.16 機政

0158

起案郵紙

大正七年七月廿三日發付
 起案者 捺印

(主務) 艦政局長

大臣

次官



參事官

前官



第二課長

第五課長



五帖

大正七年七月廿三日

海軍大臣

横濱司令官長友平

リリリ二一四配給

其ノ付工廠保管ノリリ二一四材料中夏十六分ノ三

官房第二六一號

局部	受月日	發月日
官房	七月廿三日	
軍務	官房受	
人事		
商務		
經理	七十九	七十九
司法		
艦政	七十九	七十九
技術		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

發付後起
 案者捺印

7.17

0159

艦政局

横廠第一七九八號ノ五

大正七年八月二日

第二課代 田中 横濱支海軍工廠長
中野 海軍省艦政局長殿

リソリニーム配分ノ件

五船係

本件ノ付艦政第一一九年ノ五照會ノ相成リ承
本ノ別紙ノ用リ提案ノ置キタル件御了知相成

度

右通知ス

但別紙一葉添

一終

艦政船第一九二號ノ六

海



軍

政艦 7.8.5

交持

16. 艦政二課 R. 5

0161

寫

大正七年八月

司令長官

海軍大臣宛

リノリウム配給件

七月に三附官房第六二號刻令追書事項當之取リテ
テ調査セシ候處左記見積書通り之有之矣
右報失ス

配給材料價格表送付見積書

品名	寸度	数量	價	配給費	記
リノリウム	厚4 216	一回 16	原簿 見積時價 附送長合 二高元 九一六五 〇〇	八六〇	取送料 込用

海軍

0162

至急

横須賀第四三六八ノ二

大正七年八月六日

横須賀鎮守府司令長官 名和又八郎

海軍大臣 加藤友三郎殿

第二課

艦政局

第五課 リンゴ 配給ノ件

七月二十五日附官房第二六二號訓令追書事項

當工廠より調査セシメ候處左記見積書ノ

通ニ有之候

右報 告ス

配給材料 價格並ニ送附費見積書

品名 寸度 数量

原簿價格見積時價

運搬費

記事

リンゴム	厚	3/16	一四一〇呎	三三三九五六九一五	八八・九七〇	船政艦澤用
	厚	3/16	一四一〇呎	三三三九五六九一五	八八・九七〇	船政艦澤用

艦政船第二八〇號



0163



三 菱 造 船 株 式 會 社

東 京 市 麴 町 八 重 洲 一 丁 目 番 地

書附屬

第 四 七 二 號

海 軍 大 臣

加 藤 友 三 郎 殿

大 正 九 年 三 月 十 六 日

第 一 號 登 等 驅 逐 艦 澤 風 御 引 渡 ノ 件

拜 啓 陳 者 大 正 六 年 八 月 一 日 付 以 予 製 造 方 御 契 約 申 上 候 登 等 驅 逐 艦 壹 隻 (澤 風) 本 日 午 前 十 時 竣 工 御 引 渡 爲 相 濟 申 候 間 左 様 御 承 知 被 下 度 此 段 不 取 敢 御 通 知 申 上 候 敬 具

三 菱 造 船 株 式 會 社 常 務 取 締 役

鹽 田 泰 介

第 一 課 第 二 課 第 三 課 第 四 課 第 五 課

三 菱 造 船 株 式 會 社 常 務 取 締 役
工 學 博 士 鹽 田 泰 介
御 届 手 之 迄 (〃)
目 取 頼 (〃) 捺 印

9. 4. - 50,000

0164

九月十日

陸軍本部

陸軍部

令長

參謀長

副官

令之印

9.9.25

第五七號

大正九年八月二十日

副官

令之印

五版長

副官

令之印

9.8.20

官房 砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

砲火指揮管使用

9.9.25

9.8.20

0165

驅逐艦澤風實驗用砲火指揮傳聲管實驗成績表意見

一 實驗用移動傳聲管卜固有傳聲管比較試驗成績

(一) 期日及場所 六月二日 潮岬沖

(二) 本艦連力 三十二節

(三) 天候晴 風力一—二海上橫樑和

備考	送達回数			狀况	傳聲管	傳聲管	傳聲管
	10	10	10				
一着砲、西者其固有傳聲管ヲ用ヒタリ	10	10	10	1	實驗用傳聲管	固有傳聲管	固有傳聲管
	1	0	0	二			
	1	0	0	三			
	1	0	0	四			
	3	0	0	一			
	3	0	0	二			
	5	2	2	三			
	4	1	1	四			
	5	3	2				

二 實驗用移動傳聲管、見各種射擊成績

射撃種類	期日	場所	状況	海上	發令	各砲誤調回数
並馬場教練射撃	六一三	後灘	18K	和	9	0
並馬場	六一九	豊後水 道沖	30K	長濤P	7	0
並馬場	六一九	豊後水 道沖	33K	和	9	2
並馬場射撃	七一三	豊後水 道沖	34K	長濤P	8	0
並馬場射撃	七一三	豊後水 道沖	12K	和	6	0
並馬場射撃	六一六	右	34K	和	9	2
並馬場射撃	六一九	右	12K	和	10	0

備考一、一番砲、固有傳聲管ヲ用テ
 二、錯誤、原因ハ不達誤達、P差、L差、寧砲尾ノ故障
 等ニ氣ヲ下シ、改調ヲ志シタルヲト認ム

二意見

(1) 各種射撃ヲ通シ移動傳聲管ニ通達確實ナ

リ前表ニ若干ノ點尺誤調現レ居ルモ是レ常尺手ノ

不注意ニ因ルモノト傳聲管ノ不備ニヨリト認メス

(2) 一番砲ハ固有伝聲管ヲ使用セル結果通達距離

三番砲ト殆ト同様隨而錯誤又多シ該砲ニ三吋伝聲

管ノ專設ヲ至當ト認ム

(3) 傳聲管發令所ヲ海圖室ト為スコトハ射撃幹部附

ノ配員ヲ増シ号令通達時間ヲ延長シ患ニ誤達ヲ生

シ等一ノ利点ナシ本艦ニ射撃施行前多少改設シテ

探照台ノ導キ直接指揮官側ヨリ各砲ニ發令セリ

後者ハ懸垂艦射撃指揮上大ナル利点ヲ改造ヲ希望

各方面ノ意見
見ル所ニ至リ
此處ニ至リ
射撃官ノ同
増加ノ傾向
此見リ所
至ル所ニ至リ

又

0168

附録

紙 録 附

大正
年

大正

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

射距離漸
傾向今
慮ヲ要ス
及其ノ
不利ノ緩
之ニ充用

傳聲管之通達確實十
 調現レ居ル是レ掌尺手ノ
 管ノ不備ニヨリト認メス
 使用セル結果通達距離
 錯誤又多シ該砲ニ三吋伝聲
 管ト為スコトハ射擊幹部附
 特間ヲ延長ニ志モ認達ヲ伸
 明撃施行前多少改設ニテ
 官側ヨリ各砲ニ發令セリ
 併上大七利点ヲ改造ヲ希望

0168

附箋用

紙 箋 附

大正 年 月 日
 海軍技術本部第四部
 番號
 番號
 番號
 番號

170

大正 9 年 10 月 7 日

海軍技術本部第一部

射距離漸次延伸セシメ射撃手要員増加ノ
 傾向凡今自將來モ端果シテ不用ナルヤ否考
 慮ヲ要スハキキナリ尚官報各ノ係存
 及其名ノ通信其他在來ノ傳聲管基地ノ
 不利之緩和スル目的ヲ以テ艦格上ノ Resting Gun
 之先用セテ目下艦隊場ニ意見ヲ徹セヨリ

0169

移動傳聲管に見通達確實十
尺誤調現レ居ルモ是レ常尺午ノ

第一級線本線詳表録

Handwritten notes in vertical columns, including the title '第一級線本線詳表録'.

指揮上大十九利点ヲ改造ヲ希望

附箋月

0168

大正 年 月 日
海軍技術本部第四部
番硯ニ番硯上其通達距離相以多ク一番硯ハ士官室等
間際場所ヲ通達シ二番硯及以下ハ驛音劇等士官室等
間過ニ番硯ト他硯ト互視セズ依テ保方上ハ松林場所ノ
關係ハ一番硯ニ対シテ従来通達固定傳聲管ヲ用テ未嘗不

0170

大正 年 月 日
海軍技術本部第四部
先以テ技術第一ノ意見ヲ示シテ

道
徳
社
大
正
十
一
年
②

同今次、實驗ヲ更ニ一步進メ移動傳聲管ニ換フルニ
全部砲坐下ヲ直通スル銅製傳聲管トシテ實驗ヲ重

スルト必要ナリ

但破損ニ對スル豫備トシテ移動傳聲管若干、配給ハ

必要ナリ

(ホ) 受聴器

眞鍮製ハ堅牢ナレト重量大ナリ一葉張製ハ重量

小ナレト破損シ易キ欠点アリ是ヲ改良スルニ製トセハ

兩者ノ欠点ヲ補ヒ長所ヲ具備ス改造ヲ要スト認ム

(出)

0171
0172

紙用箋附

大正 年
高 研 究

紙用箋附

大正 年
銅製傳聲管
依テ實驗

一步進式移動傳聲管ニ換フル
通スル銅製傳聲管トシテ實驗ヲ重

カ備トシテ移動傳聲管若干配給ハ

ナレト重量大ナリ一葉張製ハ重量

ヲ欠点アリ是ヲ改良スルニ製トセハ
長所ヲ具備ス改造ヲ要スト認ム

(紙)

0171
0172

紙用箋附

大正 年 月 日
尚研究ス

海軍技術本部第四部

紙用箋附

大正 年 月 日
銅製傳聲管ヲ以テシテ
移動傳聲管以テシテ
實驗セラルトス
海軍技術本部第四部

驅逐艦澤風實驗用砲火指揮傳聲管實驗成績表意見

一 實驗用移動傳聲管卜固有傳聲管比較試驗成績

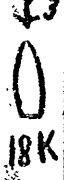


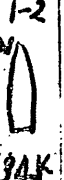


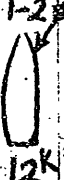
(一) 期日及場所 六月二日 潮岬沖

(二) 本艦連力 三十二節

(三) 天候晴 風力一 = 海上模様和

備考	誤達回数			令号	狀况	伝声管	發令回数	實驗用傳聲管	固有傳聲管
	10	10	10						
備考一番砲八兩者共同有傳聲管ヲ用ヒタリ	10	10	10				1		
	1	0	0				2		
	1	0	0				3		
	3	0	0				4		
	3	0	0				1		
	5	2	2				2		
	4	1	1				3		
	5	3	2				4		

二 實驗用移動傳聲管ノ各種射撃成績

射撃種類	期日	場所	状況	海上、 模倣 回数	各砲 照準 回数
遠回南級練射撃	六一三	後灘		和	9
第四	六一九	豊後水 迫沖		長溝 和	7
第四	六一九	伊豫灘		和	9
準戦闘射撃	七一三	豊後水 迫沖		長溝 和	8
夜間応用夜練射撃	七一三	和		和	6
戦術射撃	六一六	和		和	9
夜間研究射撃	六一九	和		和	10

備考一、一番砲、固有傳聲管ヲ用フ

二、錯誤、原因ハ不達誤達、P之ニテ算砲尾ノ故障
等ノ氣ヲトシテ改調シタルヲト認ム

0174

三意見

(1) 各種射撃ヲ通シ移動傳聲管ニ見通達確實ナ

リ前表ニ若干ノ照尺誤調現レ居ルニ是レ常尺手ノ

不注意ニ因ルモノシテ傳聲管ノ不備ニヨリト認メ又

(2) 一番砲ハ固有伝聲管ヲ使用セル結果通達距離

三番砲ト殆ト同様隨テ錯誤ニ多シ該砲ニ三吋伝聲

管ノ專設ヲ至當ト認ム

(3) 傳聲管發令所ヲ海圖室ト為スコトハ射撃幹部附

ノ配員ヲ増シ号令通達時間ヲ延長ニ其ニ誤達ヲ俾

テ等一ノ利点ナレ本艦ニハ射撃施行前多少改設シテ

探照台^塔導^塔ヲ直接指揮官側ヨリ右砲ニ發令セリ

後者ハ艦^艇射撃指揮上火^銃利点ヲ改設ヲ希望

又

四 今次ノ實験ヲ更ニ一歩進メ移動傳聲管ニ換フルニ
全部砲坐下ヲ直通スル鋼製傳聲管トシ實験ヲ重
スルト必要ナリ

但破損ニ對スル豫備トシテ移動傳聲管若干、配給ハ
必要ナリ

(ホ) 履聴器

眞鍮製ハ堅牢ナト重量大ナリ一貫張製ハ重量
小ナト破損シ易キ欠点アリ 是ヲ改良スルニ
兩者ノ欠点ヲ補ヒ長所ヲ具備ス 改造ヲ要スト認ム

(終)



大正九年五月十七日 起案

捺印

五月廿二日 發付捺印

捺印

發付捺印

主務 艦政局長



大正九年

次官

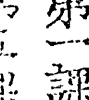


參事官

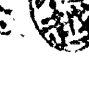
副官



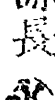
第一課長



第二課長



第五課長



軍務局長 濟



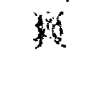
經理局長 勝



第二課長



第三課長



第四課長



技術本部長



第四部長



第一部部長



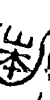
副官



井



井



軍令 水路 陸建 教育 造兵 技本 法務 經理 警務 機關 艦政 人事 軍務 局接受

經理局長

5.21

5.22

0177

9.5.19

9.17

大正九年五月二十二日
駐區概譯風範指揮官聲望定驗(件)
駐區概譯風範別對面後

官房機密第六七八號

砲光指揮官聲望ノ遺言ニ
ト比較完驗方施リセムニ
在 証 合 二

(目 而 一 等 序)

了 總

0178

艦政局

技術機密第一一五〇號

大正九年五月十四日

第二課

伊藤海軍技術本部長

海軍省艦政局長殿

瑞

驅逐艦汎風砲火指揮傳聲管實驗ノ件

驅逐艦汎風砲火指揮傳聲管實驗ノ件
驅逐艦汎風砲火指揮傳聲管實驗ノ件
大指揮傳聲管ノ構造ニ現存ノ砲火指揮傳聲管ト比
較實驗ノ訓練方至急西取計ヲ為ス

抄照會ス

進テ驅逐艦ノ砲火指揮傳聲管圖シテ、昨午天津
風級ヲ實驗シ、結果大體見當リ附キタルニ、尚本實驗

機密第一一五〇號

(杉田國清)



0179

横須賀鎮守府電話筆記用

後

大正九年三月十六日午後三時四十分受

海軍省

澤風驅逐艦長ヨリ長官宛左ノ電アリ

驅逐艦澤風受領ス

終

陸軍省

海軍省

海軍省

海軍省

海軍省

0181